

第3部 障害者とその人らしく活躍できる職場・地域づくりを目指して
障害者就労に向けた作業療法士の関わり
：自立訓練（機能訓練）事業を例に

内容

- 自立訓練（機能訓練）事業の紹介
- 障害者就労に向けた作業療法士の関わり
- おわりに

自立訓練とは

障害福祉サービス等の体系（介護給付・訓練等給付）

・自立訓練とは、障害者につき、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、厚生労働省令で定める期間にわたり、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練その他の厚生労働省令で定める便宜を供与することをいう（障害者総合支援法第5条12項）

・自立訓練（機能訓練）：標準期間18カ月
事業所又は居宅において行う理学療法、作業療法その他必要なりハビリテーション、生活等に関する相談及び助言その他の必要な支援

・自立訓練（生活訓練）：標準期間24カ月
事業所又は居宅において行う入浴、排せつ及び食事等に関する自立した日常生活を営むために必要な訓練、生活等に関する相談及び助言その他の必要な支援

		サービス内容		
訪問系	介護給付	居宅介護	者 児	自宅で、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
		重度訪問介護	者	重度の肢体不自由者又は重度の知的障害若しくは精神障害により行動上著しい困難を有する者であって常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排せつ、食事の介護、外出時における移動支援、入院時の支援等を総合的に行う（日常生活に生じる様々な介護の事態に対応するための見守り等の支援を含む。）
		同行援護	者 児	視覚障害により、移動に著しい困難を有する人が外出する時、必要な情報提供や介護を行う
		行動援護	者 児	自己判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行う
		重度障害者等包括支援	者 児	介護の必要性がとて高い人に、居宅介護等複数のサービスを包括的にを行う
日中活動系	施設系	短期入所	者 児	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含めた施設で、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
		療養介護	者	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行う
		生活介護	者	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供する
居住支援系		施設入所支援	者	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
訓練等給付	訓練系・就労系	自立生活援助	者	一人暮らしに必要な理解力・生活力等を補うため、定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し、必要な支援を行う
		共同生活援助	者	夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談、入浴、排せつ、食事の介護、日常生活上の援助を行う
		自立訓練（機能訓練）	者	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能の維持、向上のために必要な訓練を行う
		自立訓練（生活訓練）	者	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、生活能力の維持、向上のために必要な支援、訓練を行う
		就労移行支援	者	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う
		就労継続支援（A型）	者	一般企業等での就労が困難な人に、雇用して就労の機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練を行う
		就労継続支援（B型）	者	一般企業等での就労が困難な人に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練を行う
就労定着支援	者	一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行う		

品川区立自立訓練(機能訓練)事業：品川区立心身障害者福祉会館

★対象者と概要

対象	<ul style="list-style-type: none">身の回りのことを自立できるよう取り組む意欲のある方公共交通機関を利用して行動範囲を広げたい方再就職など、社会参加を目指したい方
年齢	18～65歳未満
居住	原則 品川区在住（※利用状況に応じて他区でも利用可）
障害者手帳	身体・愛の手帳・精神のいずれか必要 高次脳機能障害の診断があれば手帳なしでも可
期間	最大1年半
利用日	月～金 ※利用日数は応相談
利用料	1回800円（課税世帯の場合） ※所得に応じて月額上限が異なる
利用時間	9：30～11：30, 13：00～15：00 ※半日か1日かは応相談
その他	・送迎サービスや訪問訓練を実施 ※希望がある場合は応相談

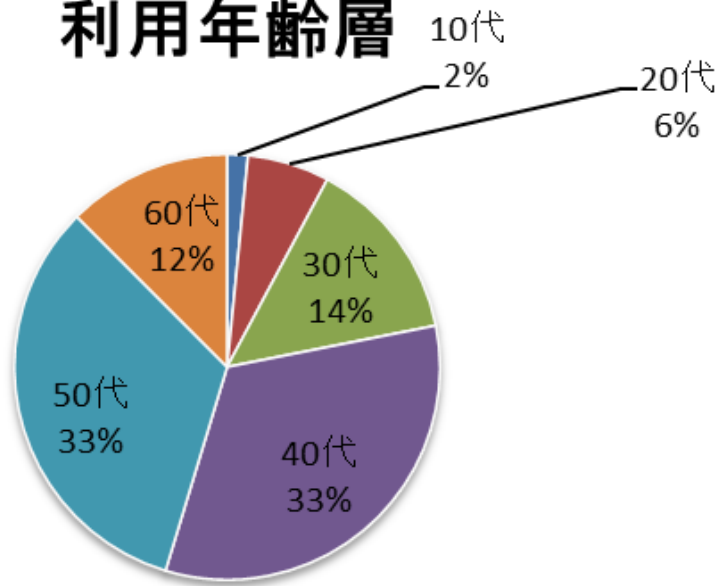
- ・定員：12名
- ・職員：管理者1名、リーダー（サービス管理責任者）1名、支援員2名、看護師1名、リハビリテーション科医師1名、理学療法士1名、作業療法士4名、事務員1名

出典）品川区立心身障害者福祉会館 自立訓練事業パンフレット

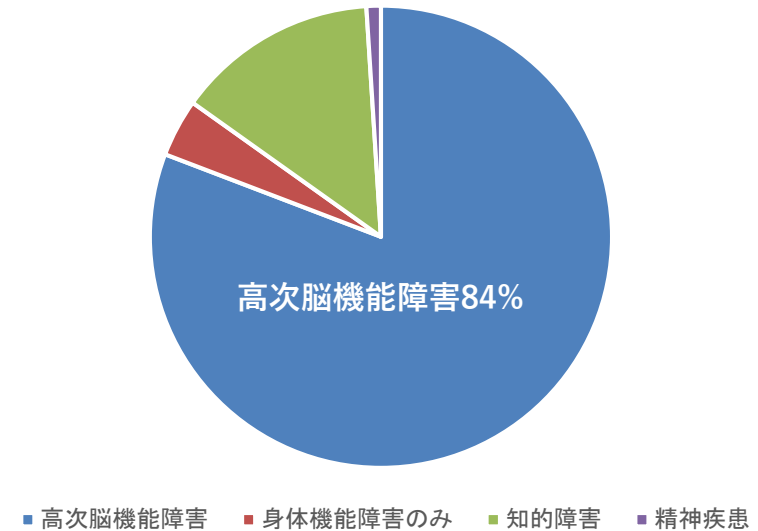
*日本作業療法士協会会員数 62,294 人中、主に自立訓練（生活訓練または機能訓練）事業所で働く会員は53人（2019年度 日本作業療法士協会会員統計資料）

品川区立自立訓練(機能訓練)事業：品川区立心身障害者福祉会館

利用年齢層



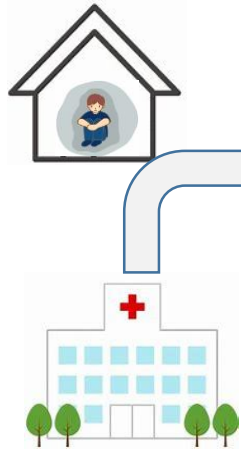
障害種別



高次脳機能障害とは、脳の損傷が原因で起こる症状のことで、「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」などがあげられる。

卒業後の進路：復職、一般的就労、就労移行、就労継続支援（A型、B型）、その他(在宅)

自立訓練(機能訓練)の流れ



支援の流れ(18ヶ月)

相談 見学体験 評価 支援計画 プログラム実施 職場見学・実習 卒業

サービス等利用計画、障害者福祉サービス受給者証

個別支援計画
リハビリテーション実施計画

1. 自宅

健康管理
生活リズム
体力



2. 通勤

安全な通勤
緊急時対応



3. 職場

仕事スキル
コミュニケーション



他機関
多職種

医療機関
相談機関
区役所

家族、訪問看護・リハ
職場

店、交通機関
職場

職場、ハローワーク
就労移行支援
就労継続支援 (A型、B型)
障害者職業センター

自立訓練(機能訓練)での作業療法士の取り組み ①プロセス

● 情報収集と評価

- 本人の意向確認
- 本人の状態評価
高次脳機能：認知機能全般、記憶、注意、遂行機能等
職業的側面：ワークサンプル幕張版(MWS)簡易版、
厚生労働省編一般職業適性検査(GATB)

身体機能

ADL・IADL

- 環境評価：自宅、通勤、職場

● 課題分析と目標設定

- 課題となる生活行為の細分化と要因分析
：望む生活行為のどこが難しく、なぜできないのか、分析
- 何の改善を目標とするか

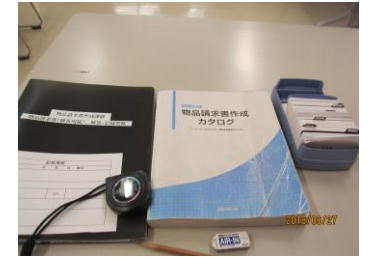
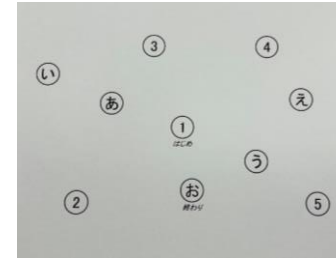
● プログラム立案

- 本人の状態に合わせた環境調整、やり方の工夫、機能訓練

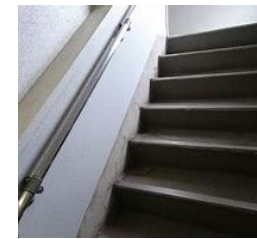
● プログラム実施とフィードバック

● 再評価、改善策検討

● 卒業



注意に関する検査例：Trail Making Test ワークサンプル幕張版(MWS)



自宅



通勤



職場

大事にしている関わり

- 本人の能力・好きなこと・得意なことを活かす
- 障害認識、自ら説明できるよう、フィードバックを行う

取り組み ②課題分析とプログラム

事例A：電話のメモが取れない⇒電話のメモが取れるようになりたい

- ・着信音にきづく ○
- ・受話器を取る ○
- ・応答する ○
- ・話を聞きながらメモをとる ×

：字が乱れ、スピードが追いつかない、内容を思い出せない

↓
手が震え、ペンがうまく握れない(手の機能)
⇒ペンを太くし握りやすくする【環境調整*】
⇒手の筋力や滑らかな動きを訓練【機能】



↓
聞いたことを覚えていられない(記憶、注意)
⇒基本的伝達事項はチェックできるようにする【*】

月 日
_____ 様
_____ の _____ 様より
お電話がありました。
<input type="checkbox"/> 折り返しお電話ください。
TEL : () -
<input type="checkbox"/> また電話します。
<input type="checkbox"/> 電話があったことをお伝えください。
<input type="checkbox"/> 下記の用件でした。

大事にしている関わり
・できないをやりたい
目標に変換
・環境調整をフル活用
・機能訓練の目的説明

取り組み ③職場実習(復職)

事例B

①職場初回訪問

- ・ 本人の現状（高次脳機能の状態、訓練内容、できること）、
- ・ 職場からは、求める仕事内容、本人を迎え入れるにあたって心配なことを聞く
- ・ どのような仕事ならできそうか、配慮があればできそうなことを伝えるとともに、求める仕事に応じ訓練に持ち帰る

②職場実習

- ・ 本人の仕事場での様子を観察し、課題と解決策を検討
 - ✓ 着替えをした後、荷物を置きっぱなしにする（注意）
⇒目印となる色つきの籠を用意する【環境調整*】
 - ✓ 何時に〇〇の場所にきてくださいという指示を忘れる（記憶）
⇒メモを取る、アラーム利用【*】
 - ✓ 何度も同じコピーを取る（記憶）⇒手順書を貼る【*】
 - ✓ 職場には、一度にたくさんのことをは伝わりにくいこと、1つずつの指示、ルーチン化を依頼

③実習継続

- ・ 実習を繰り返す中で、毎回の同行は不可能なため、フィードバック用紙を用い、本人、職場、支援者間で課題を共有し解決策検討
- ・ 1回/月、支援者も職場訪問



コピー

- ①電源を入れる
- ②カードをかざす
- ③用紙を選ぶ
- ...

	本人	職員	
コミュニケーション	悪い ⇄ 良い	悪い ⇄ 良い	気づき
明るい挨拶	1・2・3・4	1・2・3・4	
体調			
疲労感	1・2・3・4	1・2・3・4	
周囲への注意			
荷物や靴の置き方	1・2・3・4	1・2・3・4	
管理			
作業時間管理	1・2・3・4	1・2・3・4	
作業手順の理解	1・2・3・4	1・2・3・4	

大事にしている関わり

- ・ 復職先の職場との連携
- ・ 本人の疲労や不安、職場の不安を、双方から聞く
- ・ 障害について通訳

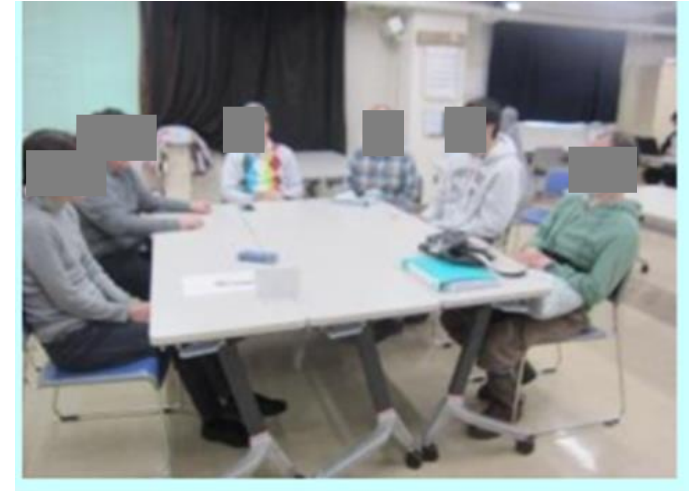
プログラム例



OA作業、机上課題



実務作業：ソケット組立



対人技能：グループワーク



事務作業；封筒の仕分け



実務作業：ピッキング



IADL：買い物

本人の働きたいをかなえるには

◎就労の目標に向けて、本人、職場、支援者の連携

- ◆ 本人の状態の理解と仕事内容の共有(通訳となる支援者)
- ◆ 職場実習と具体的課題への支援
- ◆ 就労定着に向けた継続的な支援
- ◆ 再発予防、医療との連携

◎本人の能力・好きなこと・得意なことを活かす、働き方

- ◆ 本人の能力・好きなこと・得意なこと⇔既存の求人に合わせてすることは難しい



- ◆ 地域での困りごと(仕事)を探し、本人の能力・得意なこととマッチング(仲人となる支援者)仕事を細分化し、環境調整などによりできることを増やし、地域で働く機会を…